

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	バイオクライマティックデザイン小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	主 査 名 : 金子 尚志 就任年月 : 2019 年 4 月 委員長名 : 持田 灯 主 査 名 : 永田 明寛
設 置 期 間	2019 年 4 月 ~ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な都市・建築の実現に寄与するパッシブ技術のデータベース化 ・ 住まい手の環境調整行動を考慮した建築環境システムの評価手法の構築 ・ 地域気候に適した自然環境ポテンシャルの有効な活用策の検討 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無 : 有	
	主査 : 金子 尚志 (滋賀県立大学) 幹事 : 高田 真人 (熊本大学) 委員 : 宇野 朋子 (武庫川女子大学), 菊田 弘輝 (北海道大学), 源城 かほり (長崎大学), 斉藤 雅也 (札幌市立大学), 宿谷 昌則 (東京都市大学), 菅原 正則 (宮城教育大学), 須 永 修通 (首都大学東京), 築山 祐子 (旭化成ホームズ), 畑中久美子 (岐阜市立女子短期 大学) , 長谷川兼一 (秋田県立大学), 廣谷 純子 (みつつデザイン研究所) (50 音順 敬称略)	
設置 WG (WG 名 : 目的)	熱環境への適応検討 WG (委員 11 名) : 地域に備わる自然のポテンシャルを活かす建築・ 都市環境デザイン (バイオクライマティックデザイン、以下 BD) を推進するためには、 ヒトの中立温度、受容範囲、暑熱寒冷限界、想像温度などの季節性・地域性を解明するこ とが必要である。また熱的快適性と熱環境適応の効果と限界を理解することは、BD 設計 ツールへの活用が期待される。本 WG では、既往の学術的知見の整理、各地の実態調査に より、熱環境適応の効果と限界、設計への活用を検討する。	
2019 年度予算	160,000 円	ホームページ公開の有無 : 有 委員会 HP アドレス : http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s14/

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. (名称) 第 49 回熱シンポジウム「人の環境行動を引き出すバイオクライマティックデザイン」 参加者数 79 名 (資料名) 「人の環境行動を引き出すバイオクライマティックデザイン」(予稿集)
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 49 回熱シンポジウムを信州大学で 10/26-27 の 2 日間開催した。合計 79 名ほどの参加者の参加があり、盛会となった。 2. 小委員会を 5 回開催 (1 回は熱シンポジウムの開催に併せた直前の打ち合わせとして開催、残る 1 回は予定) した。 3. 大会投稿時の細分類・細々分類について話し合った。また既刊「設計のための建築環境学 (彰国社)」の改訂版を 2020 年度に出版するための作成小委員会の設置を申請し、認められた。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本小委員会では、2019 年度に申請した既刊「設計のための建築環境学」(彰国社) の改訂版出版小委員会の設置を申請した。そのため 2020 年度は上記の本の作成に集中したい。なお改訂版の刊行は 2021 年度を予定している。 2. 主査・幹事をはじめ全国各地に委員が散らばっているため、通年の小委員会の配分予算の範囲内では委員旅費を工面するのが困難であった。そのためメール会議を複数回実施した。来年度は Skype 等を用いたインターネット会議も積極的に導入していきたい。 3. 既刊「設計のための建築環境学」の改訂に合わせて、2021 年度には大会 OS (オーガナイズドセッション) 等の企画を行っていこうと現在調整中である。